



朝夷巡嶋記

初輯

四



~ 13
3568
4



門 13
號 3568
卷 4

朝夷巡嶋記全傳卷之四

東都 曲亭主人編輯



初輯第七

林阪乃牛奔車
榎の虚北 崑崙佛

江三二廣光の幼君白鳩丸を負すめらせ妻浅良井を扶掖く。只管お走り。日下種く足利する。学校又到着く。彼如の学頭均長老又主家の艱を。竊又告て彌君のうへ我憑くが均長老うち駁馬き白鳩ハカガ為ふ外姪。さしつゝ張れむ由かると此此の資とるるさうんや。むやとくひひあへと異。強もなうけ引く。かひくくぞ舎藏ぬ志くとも廣光沐ハ主君のうへ兄が。さしつゝ又かむら尻もぢぢぬぞ。そまのこの空を瞻望くけく。世日あまり。こは程の巷後街視喋く。範頼被苦寺ゆく自殺くあくるる。廣通重。

早稲田 大學 圖書
昭 34.6.3 災
藏 書

能ホまどく七人死は殉為体。又濱の宿の第へ討討の軍兵とて向れ橋太
 左衛門治部丞ホみる悉討死し。幡太の方も猛火と包を灰燼とたつる。あ
 ると今もあつて語りつた。いひりて他人を罵り騒げば均長老の母も公
 づると限りあけきと外あつた。ぬかりちりて竊に廣光浅良并小被屋言を
 告まらせ。いままきく白鳩丸とあつて隠し人遭せど廣光ホも強きなり。
 ちのざつあつた。あつた。又今さつた。いひりてあつた。いひりてあつた。
 らたのう。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 臨し心地せり。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 るる。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 ける。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 還らとあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

此度定ふ。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 方の僧。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 太郎時。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 功。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 赦。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 詮。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 る。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 意。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 示。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 この比。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

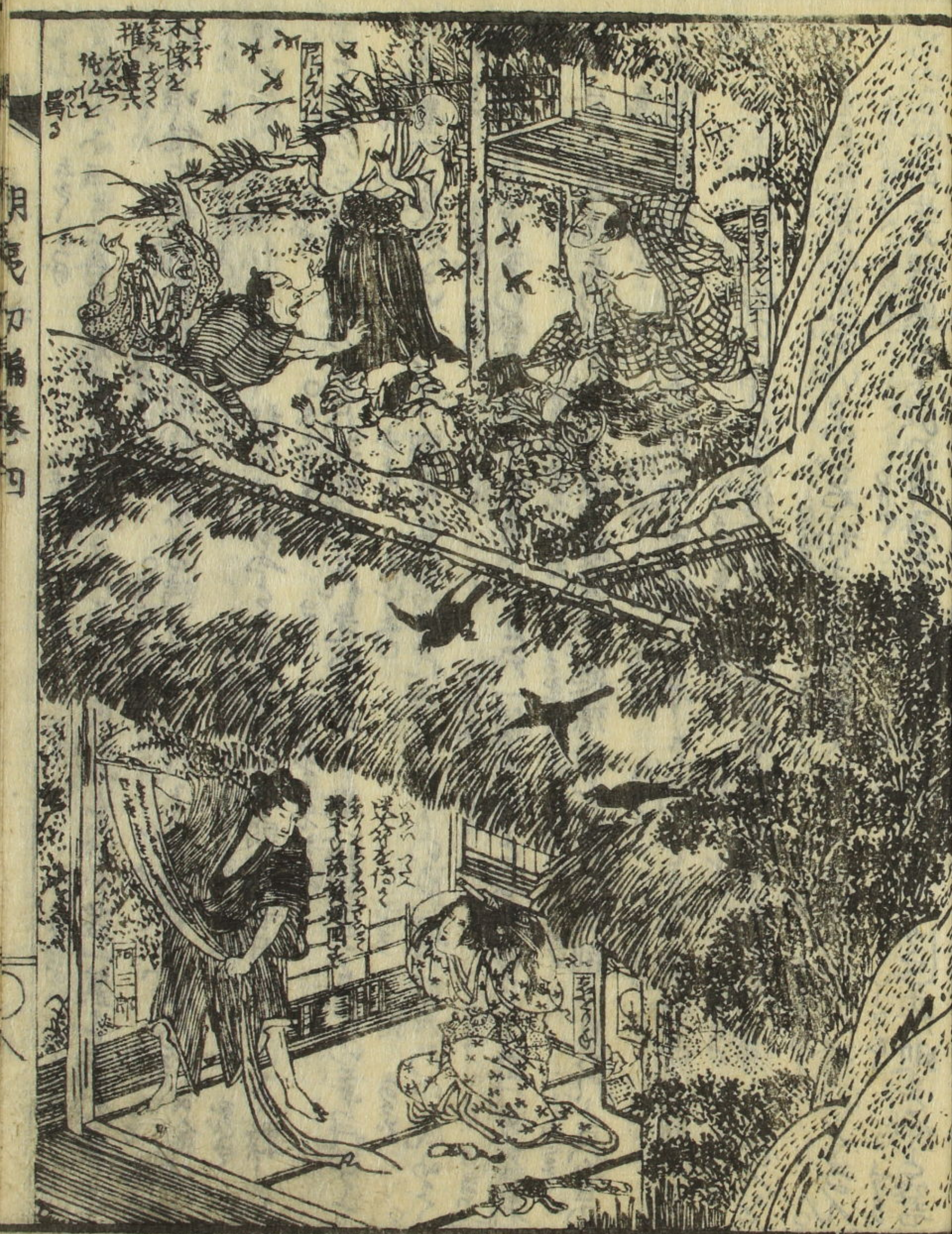
あつて白鳩丸をくろし郷は舎翁りと告白せり死今さら多ぶが去年は秋の野太
郎がこの足利小流浪への符合せり又蒲殿の寛柱は係りて滅亡志あへとも
死後ゆ及びく徳者の為よ。ちちるのゆいと志とれんと和殿の舎兄が智謀又
知りされが伴の遺書も廣通が草せり。ちちるのありて定ふいへるとも
又景盛が言葉の叙はあつたり誠は善人廣通の身の死後まを君を佐り
その智その忠傳希く惜かす主後八人名其の伊豆の山寺の誌の石の送世
とよといひて涙をそちかめり廣光夫婦の秋はとと哀はと堪ふごとく
廣通がくろせり金子をりり。八町四反の田地を購一構の家作とく
西三年の鎌倉の沙汰をゆり疑りたるゆもあるなまは均長老も廣光夫婦
婦も中々心もちる。此後ともく綾合。鎌倉を走る日小彌君へとて
白鳩丸を移しあつせ廣光も外西三人の奴婢を養ふ。耕作の用は寛通
習学向一夕にえり又さつ小廣光を敵にゆり兵書武論の剣を授けり
弓馬陣法漏はとす。武藝を励りゆり文武ゆりたかたし長は
明せん野らるる。のちくし至ての均長老も廣光も及ぶ。のち遠の遠に
源は平浪のよせり人しと階成るも白鳩丸の十六の春をちや迎へり廣光の
豫てもの均長老は相禪す元服の儀をまじしとめ。名も更めく吉見冠者長
邦と稱しけり。このとたつと郷の良賤この少年は蒲殿のあしりゆり
あつて鎌倉の沙汰ゆりえり入るごとく小怪まをされが善邦主後なるゆり
憚りの関の戸用し心地ん。この偏り長老の高恩ゆりゆりとなつて主の
ゆりつてもはんとせひゆりの均長老この秋新疾を病むつとひく。ゆり

あつて白鳩丸をくろし郷は舎翁りと告白せり死今さら多ぶが去年は秋の野太
郎がこの足利小流浪への符合せり又蒲殿の寛柱は係りて滅亡志あへとも
死後ゆ及びく徳者の為よ。ちちるのゆいと志とれんと和殿の舎兄が智謀又
知りされが伴の遺書も廣通が草せり。ちちるのありて定ふいへるとも
又景盛が言葉の叙はあつたり誠は善人廣通の身の死後まを君を佐り
その智その忠傳希く惜かす主後八人名其の伊豆の山寺の誌の石の送世
とよといひて涙をそちかめり廣光夫婦の秋はとと哀はと堪ふごとく
廣通がくろせり金子をりり。八町四反の田地を購一構の家作とく
西三年の鎌倉の沙汰をゆり疑りたるゆもあるなまは均長老も廣光夫婦
婦も中々心もちる。此後ともく綾合。鎌倉を走る日小彌君へとて
白鳩丸を移しあつせ廣光も外西三人の奴婢を養ふ。耕作の用は寛通
習学向一夕にえり又さつ小廣光を敵にゆり兵書武論の剣を授けり
弓馬陣法漏はとす。武藝を励りゆり文武ゆりたかたし長は
明せん野らるる。のちくし至ての均長老も廣光も及ぶ。のち遠の遠に
源は平浪のよせり人しと階成るも白鳩丸の十六の春をちや迎へり廣光の
豫てもの均長老は相禪す元服の儀をまじしとめ。名も更めく吉見冠者長
邦と稱しけり。このとたつと郷の良賤この少年は蒲殿のあしりゆり
あつて鎌倉の沙汰ゆりえり入るごとく小怪まをされが善邦主後なるゆり
憚りの関の戸用し心地ん。この偏り長老の高恩ゆりゆりとなつて主の
ゆりつてもはんとせひゆりの均長老この秋新疾を病むつとひく。ゆり

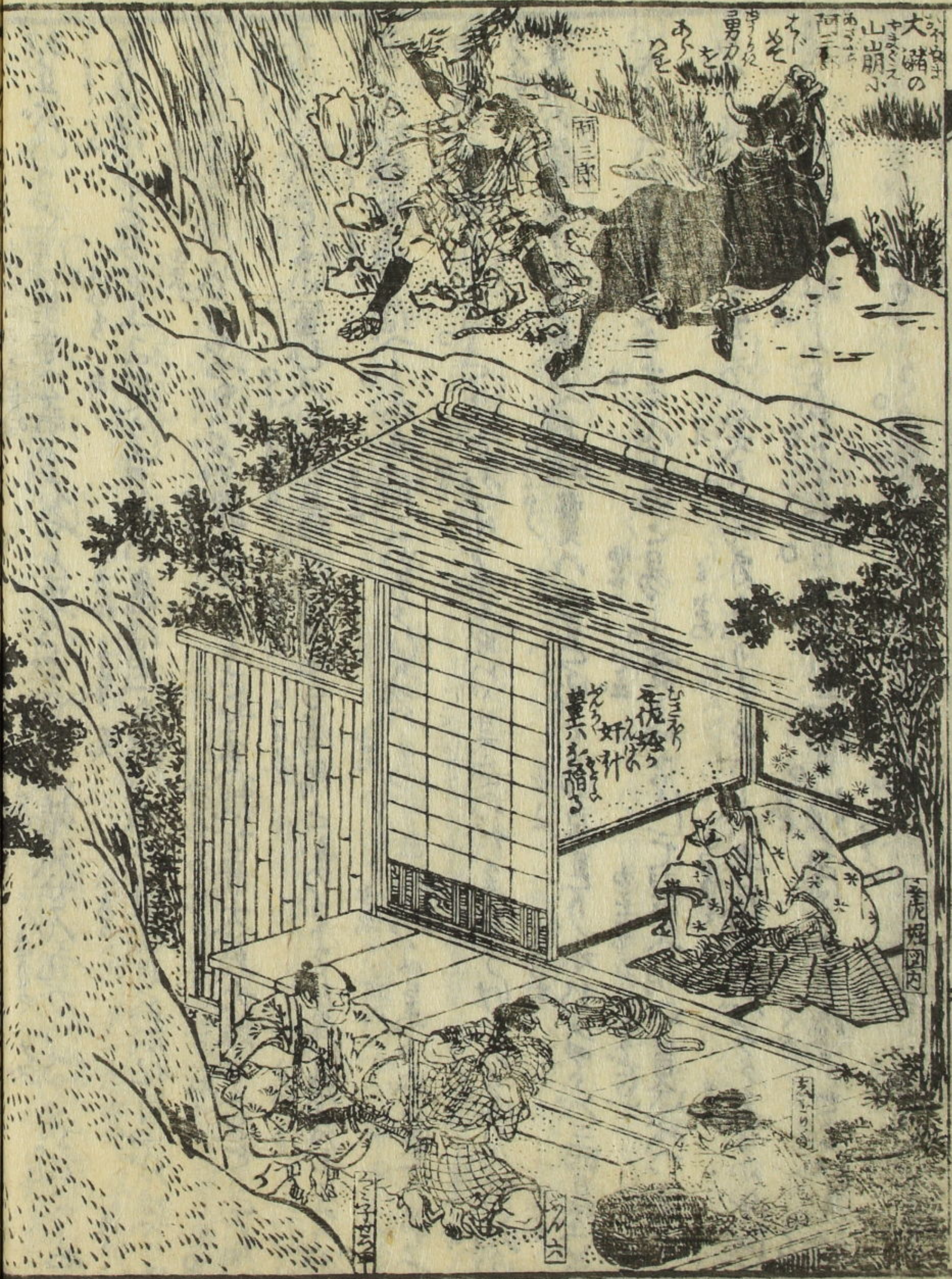
危く見えしは長知と廣光の杖方足方つた添ふ。看病等用たのうとて
 定業あるは醫療も醫つて病と五十餘日ひく。竟むむるくあるとゆけり。
 紫下某生再説阿三郎の母親の病者歿すん為る満祿寺なる師の坊を
 辭し去り大齋法江立入り。茶餅何れとて多くは費用ひく。夜とせましくいひ
 移がらき等雨るるに孝養我神も憐れむひん醫師の匙とおさる。病を
 申す中田陽とて次の年の弥生の比に大くうらむをてするもの。二とせぬるは
 價小家財ハ悉く沽却。些の田地も賃取遣へり。こがむけらるるがめめめ。
 と叫がらるるくち歎く。又豊六が貧の病ハ又勸導もあつ。トや為る務小
 確くとも親のよう我休んとあつ。朝ハ未明より。田を鋤畑とわかせとも三が二ハ
 人は領けて僕み疎る頃をふ。これお一人の稼ゆも足らざる由あつ。さすを力と入
 備へ馬と遣ひ牛を牽練と刈薪我携り。雨は隔日日小くも艱苦を比ん
 物もあつ。まかえ満祿の山寺の行童より日小絶く似せ。袴の刺夜小襪の帶
 蓬の髪と草縮く。回影さ入る裏まこり。こま我入る二親ハ嘗ひろく借族と
 債らるるもの苦く。うらむ世とく時とく木曾殿の爲流三浦堂の
 子裕とひ恰とひ貴成公子が天離る鄙の田舎の稼く。親もあつぬ
 己は只親とてさす。孝行ハ物体たや。とつたえよ。いりまり流き涙川
 委ぬ水と流浪る人の姓方のお中も明く地への云と慰む。こがぬ窮
 鬼とて雙敵とて又ちん年ハもたつもの。ありやせん。と教我追ハ果敢な死
 る心ハあつ。うらむ年月を送る。かきくや阿三郎ハ十七歳より。いりまり助
 骨大と定り。身長ハ五尺九寸骨逞く膏つた。骨は投ハ盆を掩ひ足人を
 あつ。且溝を喻ぐ。その形容力士めた。肩と比るもの。さあ。とむかぬ。温
 順ゆく。怒り我ら。いん。人を織らる。平生ゆ。さす。さす。それ。

主る。あまりなると死人は貸す。その困窮を救まへず。財のもちこたへし。
 守銭の膚といふ。さうさうと吾情富む小あはれ。和ま小比。あつちのやせん。
 そのかえり妻もたなく。又遺はぶ。死子もあはれ。六十の辰へ足踏ひて。何れも
 移く物。惜んあるとたふ返。いひひらた。死せんと。安不。我。回。少。の。要
 ち。お。と。よ。ふ。の。の。く。回。答。る。と。これら。あ。よ。り。と。豊。六。の。あ。ま。る。の。一。乃。こ。ひ。毎。ふ
 一。三。が。誠。心。を。い。ひ。お。ま。る。の。嘆。賞。一。に。當。村。よ。入。と。う。ま。竹。馬。の。友。と。ち。ち。た。た。よ
 あ。の。後。と。思。苦。を。救。入。る。る。一。と。ま。く。あ。ま。高。利。を。ま。け。く。債。の。工。奇。と。き。に
 庄。司。殿。の。一。三。の。ま。か。一。郷。の。君。子。あり。汝。未。由。彼。入。の。恩。義。残。る。と。ま。ま。そ。と。い。ひ
 つ。涙。こ。ご。ご。と。親。の。お。致。汲。と。ま。る。阿。三。郎。の。身。小。い。く。い。く。思。惠。小。報。せ。ん。
 と。お。ら。る。日。も。た。う。ま。一。が。が。力。あ。る。と。元。後。よ。あ。の。あ。り。恩。入。一。三
 ね。い。田。地。の。水。口。は。大。石。あ。り。と。用。水。の。仔。コ。ラ。一。と。ま。ま。と。も。彼。石。と。ま。ま。捐。と。

輒々後久く。こ。こ。鬼。と。は。竊。又。件。の。石。を。除。ぶ。此。の。資。小。た。の。ま。ぬ。べ。一。と。公
 せ。と。お。せ。ひ。決。め。く。親。ゆ。の。告。げ。夜。を。ま。あ。く。彼。掘。口。へ。赴。ん。お。ま。ま。百。人。あ。り
 して。も。運。動。が。ご。う。え。て。半。の。水。土。小。埋。と。る。石。を。抜。死。引。起。し。く。旧。の。工。く
 運。一。の。十。町。あ。ま。ま。北。の。ま。ま。の。谷。底。へ。落。し。く。ま。ま。と。り。た。の。の。莊。客。們。の
 件。の。擲。書。小。敬。篤。死。免。あ。の。石。を。選。一。と。起。知。く。こ。の。分。野。は。呆。ま。果。ま。の。只。神。の。所
 為。る。べ。一。と。一。三。が。幸。を。祝。せ。の。緯。遠。近。は。意。を。わ。く。不。思。議。の。ま。あ。ひ。あ。り
 さ。ま。ま。と。も。阿。三。郎。の。ま。ま。の。ま。ま。の。ぬ。む。り。ら。の。却。説。大。踏。の。北。盡。如。小。鈍。佛。とい。ふ
 女。僧。あ。り。け。り。そ。が。菴。号。八。千。日。尊。本。ま。の。釋。迦。牟。尼。如。來。龍。華。説。法。の。木。像。え
 仏。二。八。定。う。る。な。と。全。身。黒。漆。ゆ。と。玉。眼。生。ぶ。如。し。その。佛。壇。の。背。の。ま。ま。年。子
 小。の。榎。樹。あ。る。と。幹。の。ま。ま。十。圍。は。あ。ま。ま。と。枝。下。九。尺。む。り。が。積。り。の。朽。て
 虚。ぬ。ま。ま。の。よ。り。と。後。ぬ。壁。を。穿。と。の。樹。へ。箱。を。さ。り。掛。く。件。の。虚。を。厨。子。と



月夜の物語



車馬の物語

七

又豊六小云々と告ぐ者ぞの暇をいひおろしぬむ中をとりて蓋を同形にて起
 行の准備と入るその結朝宮苑なる浅草寺を投ぐ首途せりしに給に鉢佛が
 覆れ虚の崐崙仏まましく経を焼くやとくま窟の老弱男女日やましく黙しく
 田ともりて畔ともりて口も掠奪され先やと十日菴へ詣りまふそのまれば
 ち豊六が麥畑とてさう踏荒せ罵罵れどもまきりのは頃四月の中洗めく
 杖の都を青麦の登りも十分のまきりて穂も惜とせらるる今茲に糧を盡れ
 腹へともたきおのびく十日菴へ赴かん。通縁由を告ぐは制しめられ兵管の
 うち難を能佛尼のやめ入るを班する處を見し。呵こころち笑ひある衆も死
 入りぞあつこの世の假の宿するは幾一取ら二取るるを惜ましく佛へ詣り人を
 うらみ負ふ禁めりゆふふとぞや和主がぬた悪入るる地獄の鬼の冷をくらん
 めくは必前生の投棄するは守るるんさる佛敵の度へは疾逝せりと答
 めく再くとり申すは豊六の腹のこころのまをた聊あはし
 あはし一言の辨のきと見てもとく老のびく又糸結の群集ふ紛れて投の虚を
 穴窺ふと西三日小及びびく既又ころとそあり今かろと多ひ決めるその次乃
 日の外山なる柴我進るとく宿牙我知が亭牛ぶらう山を下りて件に菴と
 けいん此の老弱男女如狭たまで元満くもろのへ退がく入るの進を
 う移る彼我推此又推くくひゆく投は賽法の雪吹はまは雷殿のこく存一
 念する仏名菜種に聚く此又他より豊六の外表面より尤小立右小遠りて裡乃
 中を窺へ菴主の尼純仏に佛小對ひ高胡床しく香を焼経を編つ投くは賽
 法の落ち居方小は我配は目口又暇あるをける時分よりと豊六の勢ひ猛く引
 投へる谷の柄をりて立こころ人を撫さたかたけく虚のほとり小進り進る
 長柄の谷我杖ありて四下を信と疾視しは尼はさるる糸結の老弱男女劇駭せり

めく再くとり申すは豊六の腹のこころのまをた聊あはし
 あはし一言の辨のきと見てもとく老のびく又糸結の群集ふ紛れて投の虚を
 穴窺ふと西三日小及びびく既又ころとそあり今かろと多ひ決めるその次乃
 日の外山なる柴我進るとく宿牙我知が亭牛ぶらう山を下りて件に菴と
 けいん此の老弱男女如狭たまで元満くもろのへ退がく入るの進を
 う移る彼我推此又推くくひゆく投は賽法の雪吹はまは雷殿のこく存一
 念する仏名菜種に聚く此又他より豊六の外表面より尤小立右小遠りて裡乃
 中を窺へ菴主の尼純仏に佛小對ひ高胡床しく香を焼経を編つ投くは賽
 法の落ち居方小は我配は目口又暇あるをける時分よりと豊六の勢ひ猛く引
 投へる谷の柄をりて立こころ人を撫さたかたけく虚のほとり小進り進る
 長柄の谷我杖ありて四下を信と疾視しは尼はさるる糸結の老弱男女劇駭せり

あましくといふは、たゞの豊六を語り立て、人の五情我あちむ我現正法ゆの不思
き後ほ縦釈迦も阿弥陀でも木をりく刺さる佛が統経をみよふてあふんや。あま
この佛もまたあつちのうちのうちの佛を踏荒とて、おん糧を失ひて五禁めてのると頻
あまる菴主の歎くといふ。そのうの聴き、おん仏敵外道と罵れ損く恥か
あまかせ。波江の豊六あるよふ各告ぐばもあふんい。木佛が経巻と奥の院と
あま推用たてて明の睡醒んどと合さる谷谷とるは、おん純仏慌忙たると復して大
あま悪人物作るや。と殊教をりて拂退けんと老いし物とて豊六の怒り乗し、あま突倒し
あま同りと虚不跳入る谷より揚て下ど打くれく仏の脊より。大死するこの勸めど
あま多死蜂房礮と成ると中ぐ数百の蜂の子群死て既のふ散かさば人とこれよ
あまむそ且悲ひく。ゆる遠びら遠出る我曲果六急又呼びとら達死人のとあふん。
あまムとあふん日あして擲財を惜とせば、その本體を蜂とて足らば、あまかそむく
あまあつた迷執がもつた復の虚も早晚と似我蜂が房を造りく。その子大死くこの隨ふ
あまながくと鳴つる我佛が経巻編るのとひらてせし法を揮る菴主の尼が假方便れと
あま名けり。曹僧とのふ夏をひくく木の虚を厨子ゆくも豫たり。その底意ありて
あまあふんあふん仏の脊のうちは密とて塗あふん。竊は蜂が経巻引く。かくも亦
あまあふんあふん。夫正法ゆの不思後ほ。あふん我不思後ありとて。奇小聚合迷ひ
あまかても迷ひらるばやと声高や。小解喻せぬ。衆皆又は呆果てあふん。奇一小勝我
あま鼓現大階ゆのさるゆのあふん。突波江の豊六ハ一番量あるとのことと人ハ心を眼前
あまこの働た小魂消とて。あふんあふん。この月一旬あふん。知ゆうさび植つけせど、あま
あま蜂心養積ハ針の供養ゆるとせ。悔ゆるのをさくける。と罵らゆわ。あふん
あまあふん。細子外は此れ。あふんあふん。と散動ける。あふん。菴主純仏の五十餘歳の老
あま尼るも。曲果ハ突倒とて。あふん。転く起ゆる。あふん。鄙培ゆの泣面と蜂心蕙れと

朝夷初編卷四

文注所由の處よりば汝竊に彼如赴死民の父母を辱すか意欲まじして件の
 残を豊にまじりてか。と仰ふより。みちのそごう。きつる。あまの。とて。こ
 選り。る。が。エ。の。さ。ら。ち。残。を。ま。く。告。め。て。叮。嚀。又。説。示。し。て。唐。櫃。の。蓋。推。用。せ。
 昔。銭。十。貫。支。堆。ま。く。積。む。程。は。葉。の。文。が。呆。惑。ひ。く。さ。う。た。く。と。ま。り。受。
 納。む。こ。の。方。が。あ。わ。り。の。厄。也。并。と。ま。り。て。の。菴。を。開。せ。ち。ん。外。口。あ。ら。ん。う。と。安。ま。
 け。せ。ざ。じ。よ。ま。ひ。け。る。賜。り。の。有。く。た。ま。ぐ。辱。ま。と。受。ま。く。死。中。う。る。死。
 中。ら。こ。ろ。も。の。ひ。辨。さ。し。皆。門。の。槐。小。目。も。あ。ら。ま。良。人。が。還。る。小。程。ゆ。ほ。
 且。く。あ。ま。の。ひ。後。と。い。が。既。成。う。ち。掉。く。否。む。づ。う。た。ら。も。あ。ら。ま。良。人。の。苗。
 ち。と。る。女。房。小。遊。と。せ。ば。則。豊。六。よ。と。ま。り。甘。く。こ。と。異。る。ら。び。日。の。暮。かり。ぬ。
 眼。代。も。持。つ。び。く。こ。と。あ。ま。ら。ら。め。吾。の。ま。ま。と。立。あ。ま。の。袖。を。さ。ま。り。と。り。と。り。
 こ。ろ。の。あ。ま。ら。ら。め。湯。由。進。ら。せ。と。う。あ。ま。せ。と。禄。端。の。小。膳。成。空。大。く。
 目。送。む。が。萍。平。の。遠。け。小。後。者。を。お。く。走。去。ぬ。か。く。こ。の。日。由。入。相。小。山。寺。乃。鐘。
 音。つ。れ。く。も。の。林。へ。か。へ。比。豊。六。の。脊。小。餘。は。社。成。負。て。か。り。ま。ら。ぬ。あ。ま。ら。び。と。
 葉。の。諸。の。掛。く。荷。成。釋。せ。盤。又。汲。く。さ。う。も。は。水。成。踏。く。豊。六。の。行。推。
 拭。く。も。拭。く。も。眉。の。塵。埃。さ。う。ち。拂。ひ。草。鞋。と。死。捨。兩。足。を。洗。く。と。駈。く。蚊。遣。
 せ。地。坑。の。屋。より。胡。半。の。積。る。錢。を。え。り。く。彼。の。何。ぞ。と。研。ま。は。葉。の。ひ。
 う。ち。笑。う。も。づ。た。び。ま。く。嚮。小。眼。代。鞋。堀。ぬ。る。平。群。萍。平。と。の。使。者。
 多。かり。て。ち。ん。身。が。ま。の。の。働。死。成。瘵。身。の。と。大。く。さ。ら。ら。め。も。ま。菴。の。賽。錢。を。
 悉。百。と。す。ま。く。復。昔。來。今。と。荒。さ。ま。り。て。損。毀。費。ひ。ま。り。口。杖。の。如。此。と。三。箇。様。こ。と。
 ち。ん。の。ま。く。告。げ。不。豊。六。眉。ち。ち。草。ぬ。そ。ま。ら。つ。や。く。ま。ら。る。ぬ。が。と。縦。沓。や。さ。ら。も。
 公。こ。ち。の。ま。く。さ。り。の。と。純。仏。が。非。分。を。外。は。り。吾。侪。成。賞。美。せん。と。の。ま。ら。び。双。方。存。心。
 文。注。所。へ。召。よ。せ。て。對。決。し。その。ち。ん。の。殘。を。ま。ら。る。べ。た。の。ち。ん。乃。千。日。菴。乃。

賽後に没収せしむるの又その法を豊六へありの密の使といふその義小稱
 のどいと揮あるところの謙倉でござる口一人殺又殿あるが親疎る長成時
 悪状遺を禄め賜りてん船堀めの名小似せし會ふところをさしけしおし由
 せざる程非平と鞍の法をあらんや。このかゝる情由あるならん。あづ
 推辞と義をさしけし。あづこが還るまが使を引とあかづひらそのひら
 せしめ異るらざとひらけくもよる。又田舎の今又後悔する。
 のむらびくおまはらめ良人の田舎の女房の處をせしめが豊六の
 せしめ異るらざとひらけくもよる。又田舎の今又後悔する。
 とひら豊六の洗吟。あづこが還るまが使を引とあかづひらそのひら
 日へ暮る。翌の早きと文浪所へてまわす。返さん。一夜とまのあづこ
 物鉄鬼の糧を六脚虫が欲は生平のよるで熟睡。り。盗さるるが難義え
 戸棚の消え固うせ。あづこが還るまが使を引とあかづひらそのひら
 夜とまのあづこが還るまが使を引とあかづひらそのひら
 あづこ短く。その晩と目睡。夫婦の常と朝寝。日の升。比。り
 える豊六の帯引結び。慌忙に戸の戸を閉は。遅。と捕は。大勢。透。あ
 せむむくとまのあづこが還るまが使を引とあかづひらそのひら
 粉とふ賽後を棄去。大盗人を捕ま。と眼代の令。ゆ。り。向。さ。り。事。成
 かれ。聞。く。声。又。葉。の。ハ。聲。勇。た。え。く。ま。り。出。が。鞆。兵。ホ。推。禁。ら。と。と。泣
 妻。と。コ。ト。入。の。豊。六。ハ。駭。だ。ら。乳。さ。た。く。些。退。た。く。小。勝。孤。獨。た。さ。り。理。不。尽。の。
 其。八。日。菴。の。純。仏。を。罵。り。懲。せ。し。と。の。あ。と。と。法。を。盗。ら。ば。え。る。と。い。ひ。せ。し。由
 あ。の。口。を。揚。ぐ。廿。三。四。ち。平。め。陳。ど。ま。づ。と。く。あ。ら。ん。や。論。より。澄。据。合。搜
 せん。とい。ふ。中。小。早。雄。た。西。三。入。彼。此。と。揚。王。遠。と。物。も。は。戸。棚。は。潰。と。い。

戸棚の消え固うせ。あづこが還るまが使を引とあかづひらそのひら
 夜とまのあづこが還るまが使を引とあかづひらそのひら
 あづこ短く。その晩と目睡。夫婦の常と朝寝。日の升。比。り
 える豊六の帯引結び。慌忙に戸の戸を閉は。遅。と捕は。大勢。透。あ
 せむむくとまのあづこが還るまが使を引とあかづひらそのひら
 粉とふ賽後を棄去。大盗人を捕ま。と眼代の令。ゆ。り。向。さ。り。事。成
 かれ。聞。く。声。又。葉。の。ハ。聲。勇。た。え。く。ま。り。出。が。鞆。兵。ホ。推。禁。ら。と。と。泣
 妻。と。コ。ト。入。の。豊。六。ハ。駭。だ。ら。乳。さ。た。く。些。退。た。く。小。勝。孤。獨。た。さ。り。理。不。尽。の。
 其。八。日。菴。の。純。仏。を。罵。り。懲。せ。し。と。の。あ。と。と。法。を。盗。ら。ば。え。る。と。い。ひ。せ。し。由
 あ。の。口。を。揚。ぐ。廿。三。四。ち。平。め。陳。ど。ま。づ。と。く。あ。ら。ん。や。論。より。澄。据。合。搜
 せん。とい。ふ。中。小。早。雄。た。西。三。入。彼。此。と。揚。王。遠。と。物。も。は。戸。棚。は。潰。と。い。

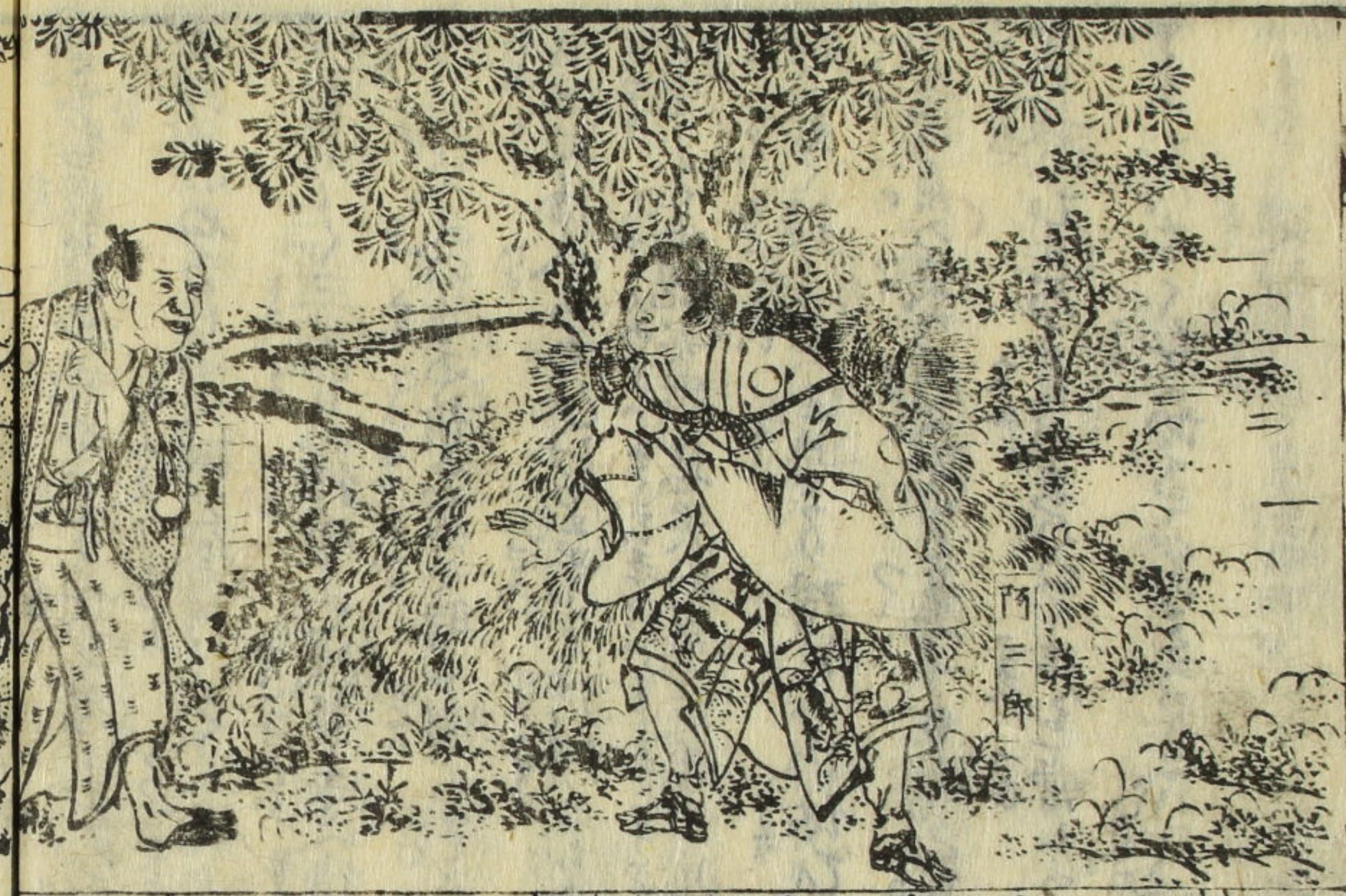
たふのいとも怪しと戸を履放せしあつらと出志十貫の銭引しと豊六が目先へ
 撲地と投るるべとてでも汝の盗むるとあざと笑へる葉はの遠は泣声あつとよとく
 その後の箇様と如吐とのふかよとて眼代とるありといひとく隙小被は常の
 操延しく異口同音小汝何の功ありていづとの日小文注所へるも賞銭とる
 づとていふよりあつらとてと罵りあつらとて豊六をとる生と縛めたり。
 豊六のあつらけらるる宛柱は澄据の狭地獄の沙汰ゆかひとあり謀を色けりといふ
 又よとて再び争ひて逐立らるる生とて良人のまゝ葉ひが力を投かくれば
 戦兵亦小突之とてとて轉輾び携るる賂括らるる返に草環るるぬ郷乃索
 ぬ蹟の疎るるの唯雄離るる朝きのつらぬの樹をたつ度ひたゆとてと長し

初輯第八

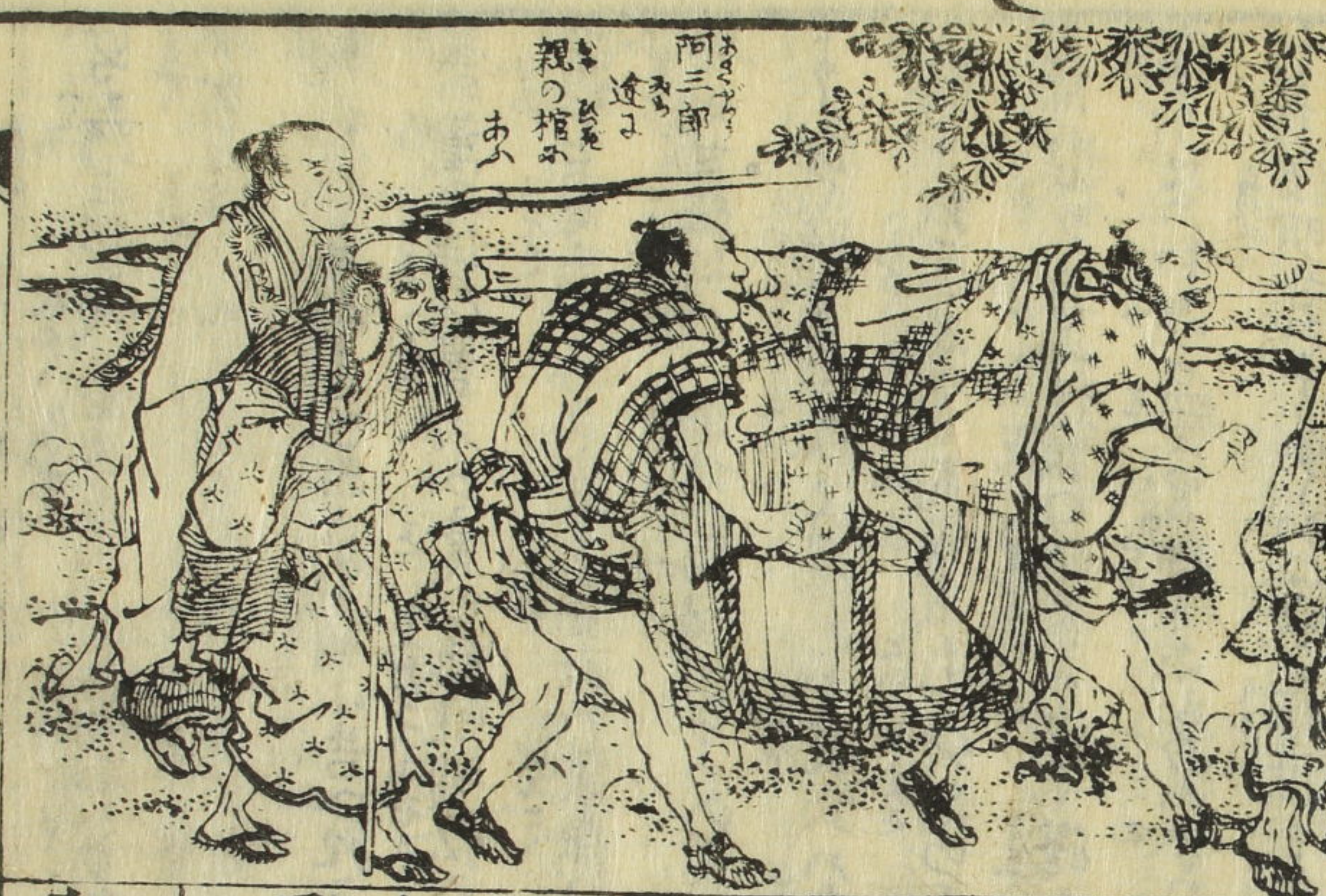
帰郷の野邊送王
 復讐北記大刀

船堀圖内が戦兵亦小豊六を搦捕る。航て文註所へ牽りて来る。謙書の將軍とて
 諸國の守衛の正廳を公文とて。云云のふり報知とて呼の裡へ推とて。こみとては安房
 國朝夷郡のうら大瀨滿祿健田の郷も御厨五郎滿祿信俊の領所と信俊は
 この年来在源君よりいへ郷の老黨船堀圖内一郡三郷を別當しく賤斂を収め
 賞罰とて主威持領主小異るるを。齡六十ふらとていふも。慈母の公絶とてけ
 るべ入致んると奴のて。賂とてとて諸とてとて是れ用ひて。利口小棄りて
 得失を辨し。奸智とて遅しく。利害と論とて。民の煩ひ少くと。移とてその性素より利
 さうと。世才小長と。癖者とて。六領主のよら。ひとて。あつらるるのとの。とて。ふらとて。は
 却燒圖内ハ尼が子なほ切平亦成後とて。もその席とて。あつらるる。とて。小垣
 首せり。そのと死國内ハ業を。いよせ。咳とて。信とて。とて。あつらるる。とて。豊六ハ一昨故も
 る。十日菴の靈佛とて。ち。碎死女僧地仏打擲とて。百塔の殘と。盜志とて。そのふら

及へるに及ぶ昏睡し、其の野兵ホこを引起し、面水が流たけ、其の飲せり、
 せし、且しく息出されとも、其の野人こちへる死たふべし。船堀園内へ、こころを、
 うち笑ひ、造奴陽滅を、その、又責く、い、と日、傾、ぬ、け、
 るん、嚴、く、獄、舎、小、移、り、け、し、と、い、か、野、兵、ホ、立、ち、て、片、息、た、り、豊、六、を、
 衣、多、く、引、起、し、獄、屋、の、く、又、お、く、去、ぬ、さ、り、移、り、葉、子、の、敷、た、い、か、し、と、枉、屈、の、
 神、を、引、起、し、佛、又、叩、ち、い、づ、良、人、を、救、へ、と、い、ふ、の、り、死、親、族、を、あ、ら、ざ、れ、
 司、駿、の、一、三、は、相、禪、の、村、長、然、因、り、船、堀、が、宿、野、小、赴、死、一、通、の、願、状、の、く、恩、免、を、
 先、小、け、こ、も、被、切、平、ホ、こ、を、阻、て、國、より、肉、入、し、
 汝、何、と、こ、ろ、なる、豊、六、が、首、伏、の、科、よ、り、妻、も、子、も、同、犯、同、罪、と、い、ふ、
 赦、さ、し、と、い、ふ、と、考、へ、る、も、推、さ、し、る、大、膽、を、再、て、
 纏、成、ぶ、う、ま、あ、ら、ざ、り、二、三、葉、子、を、竊、り、
 つ、う、ち、熟、を、こ、日、を、送、り、ぬ、か、る、べ、し、と、早、振、神、を、
 三、部、の、ぬ、る、日、小、大、緒、と、啓、初、し、上、総、下、総、を、過、り、急、ぬ、旅、の、
 つ、そ、か、り、二、三、日、の、宿、し、て、浅、草、寺、へ、猪、よ、け、
 母、の、又、父、の、為、小、祈、念、無、常、時、由、悔、ら、む、
 極、と、昇、降、人、又、あ、ひ、け、る、光、と、後、河、と、
 合、掌、し、て、西、親、女、泰、息、災、命、造、惡、消、滅、二、世、女、樂、大、慈、大、悲、と、念、
 向、又、赴、く、宿、ま、区、時、より、附、さ、り、小、休、ひ、も、せ、
 小、鹿、の、角、の、束、ち、用、は、
 里、の、覆、も、む、
 中、小、ま、は、
 進、む、前、面、と、
 桶、を、
 解、洗、衣、
 被、つ、
 昇、く、



よき入事ありのあつし浅草なる親音
堂の通夜す時の夢又似てまは雅と
まねど胸法まて迎つてふ彼くもま
中河三郎なり一秋といふ年一三
ろつと棺を早は合壁の甲乙るん
いろふとやひささく立在が棺を其処へ
早より衆皆声を低く噫河三郎
致幸はし又まへむさくろくまふり元
ゆれ縁故因縁あま路傍でひんがじ
和郎の言のそふとて。そつところく
まふとて。あつとあつて送葬の月



いふるせめてものむかひもあつぬべし
日の暮ぬは傍りといひつる早起を
棺小後河三郎ハ一夜あつてこれ申
亦夢ろとぞや入夢ろつて先よ浮世の
泡沫を常人の命ハ朝の露と袖ぬじや
野邊送り。己が袂衣脱ろつ小又ハ冥土
の首途へ。ゆくと還ると逢坂の関ろつ
なく小ぢめても禁あへぬ涙をまろつと
田舎のふゆあまハ田圃の畦と墓所よ
と壊ろた世は埋葬て河三郎小田向
まふとて。あつとあつて。宿野へ入る

けり。阿三郎のくまを勞ひつゝ、共小まきくまを工に繕う移て、再び其れは伏流を
 潜れと泣くをらる。かゝる一箱は一二の途より、むと立立えりて阿三郎が脊を敷き
 長しをへらさる。この事、竊小告ぐ死ぶのあまひ、且彼如へと繕ひ立て、鹿苑
 屋の蔭小伴ひ豊六が、まの越峴輪仏の。死にが。眼代の使者、洋平が、殺
 の機を齎来とほよる。豊六の禁獄せらる。緯あふ及べら下り、死密かふ
 告知せ彼純仁の眼代、又由縁ありの。計を、まらりて、あから救ふ
 一ゆる。脱る。小途一、る。まら。豊六の毎日の呵責、小怯ざりけん。昨々、暴死
 と、あふ。灰はゆき、死體、か、受形のごく、葬ぬ。いと、真成小耳語が、阿
 三郎の、毎小、建恨の、涙禁、の、く、滑ら、あ、わ、が、一、三、中、鼻、う、ち、あ、て、又、い、ま、う、
 痛、う、た、和、郎、が、母、う、り、便、り、小、あ、り、子、へ、な、さ、し、夫、が、獨、捕、ら、れ、一、日、う、ら、し、口、に、泣
 くら。泣、明、せ、が、中、や、お、と、る、瘵、積、中、文、小、あ、り、く、乃、の、又、細、ま、な、ま、し、く、ま
 むら、く、わ、の、ま、と、と、使、え、一、時、の、昏、絶、て、西、都、致、駿、く、り、ま、ど、も、雄、く、一、死、老、ま、の、か、
 ろひ、く、と、と、あ、り、乱、さ、ま、と、く、和、郎、が、立、上、る、は、後、の、い、ま、ま、親、む、り、子、も、の、い、
 ち、く、親、類、る、精、進、固、り、お、り、せ、し、と、吾、情、の、難、を、着、る、調、通、家、の、ち、小、連、れ、の、
 外、の、あ、ら、や、ら、ぬ、し、ま、あ、ら、も、ま、で、建、が、せ、んと、懸、し、ま、ど、も、白、地、ま、し、い、う、く、死、難、ま、
 あ、り、腹、ら、る、死、眼、代、致、傷、痛、く、尼、と、目、は、着、て、豊、六、を、責、殺、し、と、も、鮎、や、和、郎、が、
 悪、り、ま、り、母、の、ろ、と、も、小、捕、捕、ま、り、科、致、す、せん、と、も、用、意、せ、ら、る、下、り、又、吾、情、の、
 密、語、の、あ、ら、け、り、ま、ら、が、親、子、慮、と、と、お、の、ま、を、え、い、の、と、危、し、の、ら、の、お、な、や、
 ち、せん、と、も、侶、と、ま、ら、う、て、あ、り、ま、ら、し、日、或、路、費、小、母、の、ろ、共、と、く、奔、と、と、
 真、し、ら、て、百、文、あ、ら、ま、の、粒、銀、か、み、拭、又、包、は、ま、く、懐、の、り、ま、ら、な、く、遠、く、と、ま、
 せ、ら、阿、三、郎、の、感、謝、又、堪、ぬ、の、好、意、け、け、の、ま、た、ら、く、母、が、長、死、病、老、を、賃、
 む、り、せ、り、お、と、る、と、あ、ら、ま、の、厄、難、よ、り、の、痛、い、ま、ら、な、く、な、ら、な、く、何、れ、時、ゆ、ら

一三門命の告を色より遠恨の去まよはる一の如く悲歎嗚を由とより今更
 せんまぶる。凡此夜の大厄難ことまでゆく解けよあまごころのたげ
 老る後く此の母の母は共吾情を擱捕んとてとなく還る我侯よまへの
 事やと擱捕るは彼人が得たよく親子他郷へまよとなく路費を惠
 へるごころのたげのたげもあま二親るがう寛枉に係りあが死後までも
 うらみの人の怒る三二十六計の如くはつと此の暁は母の首を以て送電
 したる外は擱捕なり。となく唯估志多とこのまじり懐より。二三が贈は
 根次とよく出くせんせうの菜子頻は嘆賞よく現彼人の親子がたが守本
 事秋産の秋大なる利益へ吾情も又あがりる。件のある成はま
 竊のわん方をまきえるは此夜の没友小振托く物残まわく沽却し些乃路
 費を擱捕たり。よくわ吾情の囚とく屍を市の棄らるはわん方をまきえる
 中絶く根をたげぬ。とぞるまのわん子を親おろすとのまじり
 けり。のわんも強面。武義徳のまよと死ぬ。人の死ぬは誘はる。と
 の成勢の上座へ塵の如く拂ひ推居く。猛は敬ふ光景小阿三郎の呆を東女
 何ものまよはるをまよとてやと立ちまよを成推禁め。緯の本末知はる
 傷は心乱まよ。あまぬるはまよとてまよとて改めく温ヤス。の
 事やと擱捕るは彼人が得たよく親子他郷へまよとなく路費を惠
 へるごころのたげのたげもあま二親るがう寛枉に係りあが死後までも
 うらみの人の怒る三二十六計の如くはつと此の暁は母の首を以て送電
 したる外は擱捕なり。となく唯估志多とこのまじり懐より。二三が贈は
 根次とよく出くせんせうの菜子頻は嘆賞よく現彼人の親子がたが守本
 事秋産の秋大なる利益へ吾情も又あがりる。件のある成はま
 竊のわん方をまきえるは此夜の没友小振托く物残まわく沽却し些乃路
 費を擱捕たり。よくわ吾情の囚とく屍を市の棄らるはわん方をまきえる
 中絶く根をたげぬ。とぞるまのわん子を親おろすとのまじり

月...編...田

九十一

母の死のうらみは母のうらみと云つても彼戒のそばとて子と刺んとて母の死
 りのうらみや推禁のうらみは練をればなるかあんなに放りしと云ふその
 子と母はさうせん舊里へおて還りて夫婦が中の子と母とをいへんと人となん比
 後へへへ素姓を告げ又教へた母のうらみや實の親とも養の親とも絶え
 ちよとてうらみだけけることこそが母の陰に憑る種らんむとあつた中へ入
 俱利迦羅の戒刀をとりてあんな腹へさして立つたゆひゆけと當下送る精細に
 この戒刀の養父の像見母が鮮血を流るは又この指の實の父君木曾殿のあ
 旗のうらみやええしごととと一毫のうらみやも送らんむと血をりて指の書
 をさらして二種の血を領し阿三九が人となり勇士さるべりのうらみやひつて戒
 刀へて取らせよと云ふことこそ鎌倉殿の仇と云ふをさるべり死心發して因縁
 ある美盛は一紙連係せん忠孝の道鉄槍へ只かまても被入を其の親と
 やひてその身の武勇世にまゝ二百入る時を俟とち美盛は死を憐れ
 むひへせよと云ふもさうは養はる生涯恥ぢ雪ひつてはひへ死のうらみや
 ちよとてなほ子孫を引つけく右の鉄槍口へさへ入る五臓を解き引出し
 子孫の鮮血を流しゆくあつてはひへるうらみやも長した比んおるうらみや
 ちよとて中へ入るうらみや死を待つとあつてはひへる志氣激しく記念の二種膚小
 附路費かせとて賜は財布袋腰に結びそとて子孫を背負へ瞳黒く去
 らんとて折らる。緯をち竊ひひえあるの恥の後方る。紙門飛姫と推ひて死
 乳母とまはれしうらみや非をとり後悔勇婦は自殺させ又その子とまはれし親
 子の死を流る美盛が瑕瑾の中へおとせよとせよの死の態とて後門へ入る
 ちよとて去とてその曉に武勇の金澤に赴き。ちよとて律法未の折清肉の老
 堂晋越六郎といふ人の死大ゆめく難追兵成萬とて引復さるうらみや

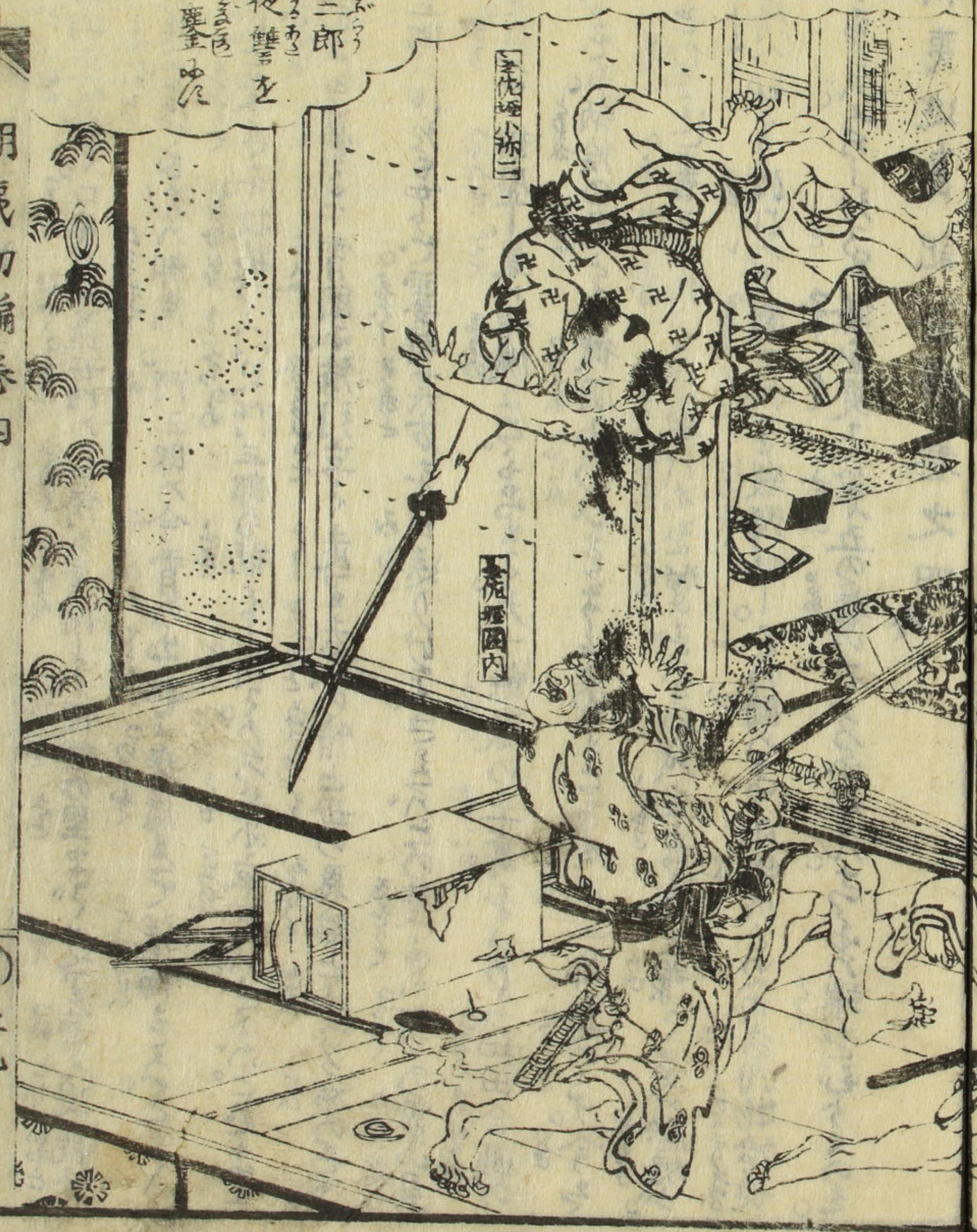
ちしるが後跡のりんと外ろのうらもせせん。今宵海陸小袂分ち侍り
 てん言あそらも流りなれ澄へこそぞ。と俱利迦羅の懐カひをふ引扱く。
 警井と剪拂被旗指ふとまそそそ。恭しく阿三郎がほより近く関たつ。こも
 解ハ雄一がふこえても袖小漏る雨の霽同ハ絶てあるとけり。さうのとなくとも阿
 三郎も野我低る我又くつくとゆめくとり。且く大息つた儼然と形改めく。
 旗指刀を両のちみ二つ三つうち戴き戒るめる古人の金言十室の邑ゆも
 忠信のちと乳母夫婦がふりらるん礼中も既ハ八母のそあや。養志のめみる母え
 何てふ親子のそを絶べたさゆも実の母乃心操了を有づけけ祖その自殺も
 某が故とゆめが力の飛車く養親の恩も高うと母の送命耳も留王賜み深て
 悉くおんよとととそそ私の怨我討世我騒く謙倉敷も我慢の弓をせりやん
 ちるよと身の厄難を脱んぬ。今阿答とと謙倉へまほへうのちらねは名持の

胤良家の子とさうゆ絶くちるはうとも。八九歳の比もましく口管吹奏はほく。
 満緑寺ふと匡時健田秀作といふ師は因く粗成の道成習ひが健田の翁はれを
 相く。勇力ありと定ふりり。ゆめ母の病も我えとて入るる選りく後山崩坂
 ち牛車解さる。牛車の浪落る我ちらひも推登りく。みんがう替力あこそ我えり
 けりて入るはせらふ。おん思入二三の桶口のほ大石をとる捨く由もころ所るえ又
 学問の道強うけり胸中五車も富むといへも儒仙の教和漢の史も古今の治
 乱君臣の得失ハ粗緒し。ちるあどと親ゆま。ゆめゆつて隠せハ師の
 城も心ゆのうらむの身も我且愧く。他の妬媚とあそゆ。あ時
 家の艱も養又と垂ひがを置ととるるたよ及びく。ちるあどと親ゆま。ゆめゆつて隠せハ師の
 志我更めく。仇を替難を避身も自立も我も揚彼世今生と五才らの親は我抜
 恥を雪めて孝親はたけら。入の子とみんがう。ゆめゆつて隠せハ師の

とる直ぐ。下より力失まぐ。弁又。うち更。瞬目せ。冥視。天暗。截物。
 焼刃の透る鮮血の母の像を彷彿といひあへず。眼をがら。靴小納め。腰小帯。入。襟。
 推む。思ひの。親とせよ。養ふ。友。垣。待。へ。我。兼。の。の。君。の。四。海。
 みる。兄。弟。ぞ。勉。ま。う。と。血。を。流。す。守。せ。の。ひ。教。訓。の。目。今。母。小。面。り。お。い。い。ふ。
 異なる。一言。め。て。養。を。と。半。句。し。る。も。由。岷。山。の。片。玉。み。し。貴。い。も。
 ち。ん。母。の。志。料。と。思。意。一。符。合。せ。る。と。い。ふ。は。養。小。使。恩。を。答。へ。今。實。説。信。體。堀。
 等。と。盡。む。く。念。復。し。母。を。脊。負。く。他。郷。へ。走。り。時。を。ま。ん。と。旗。指。を。捧。ぐ。
 こと。て。立。あ。る。言。語。面。さ。身。の。運。動。自。然。と。は。る。勇。士。の。本。體。現。義。仲。の。為。亂。鞠。
 給。子。と。く。目。光。に。葉。の。慌。忙。だ。と。杖。小。推。引。と。あ。り。小。物。投。入。盗。む。た。人。憎。む。
 頼。む。と。世。結。ま。り。た。今。ぞ。志。成。氏。の。養。め。よ。う。と。け。り。能。あ。る。養。の。心。を。隠。し。
 の。の。お。お。習。得。し。夫。学。は。藝。ち。う。う。と。世。の中。に。入。り。あ。り。あ。り。あ。り。恩。義。の。為。は。怒。

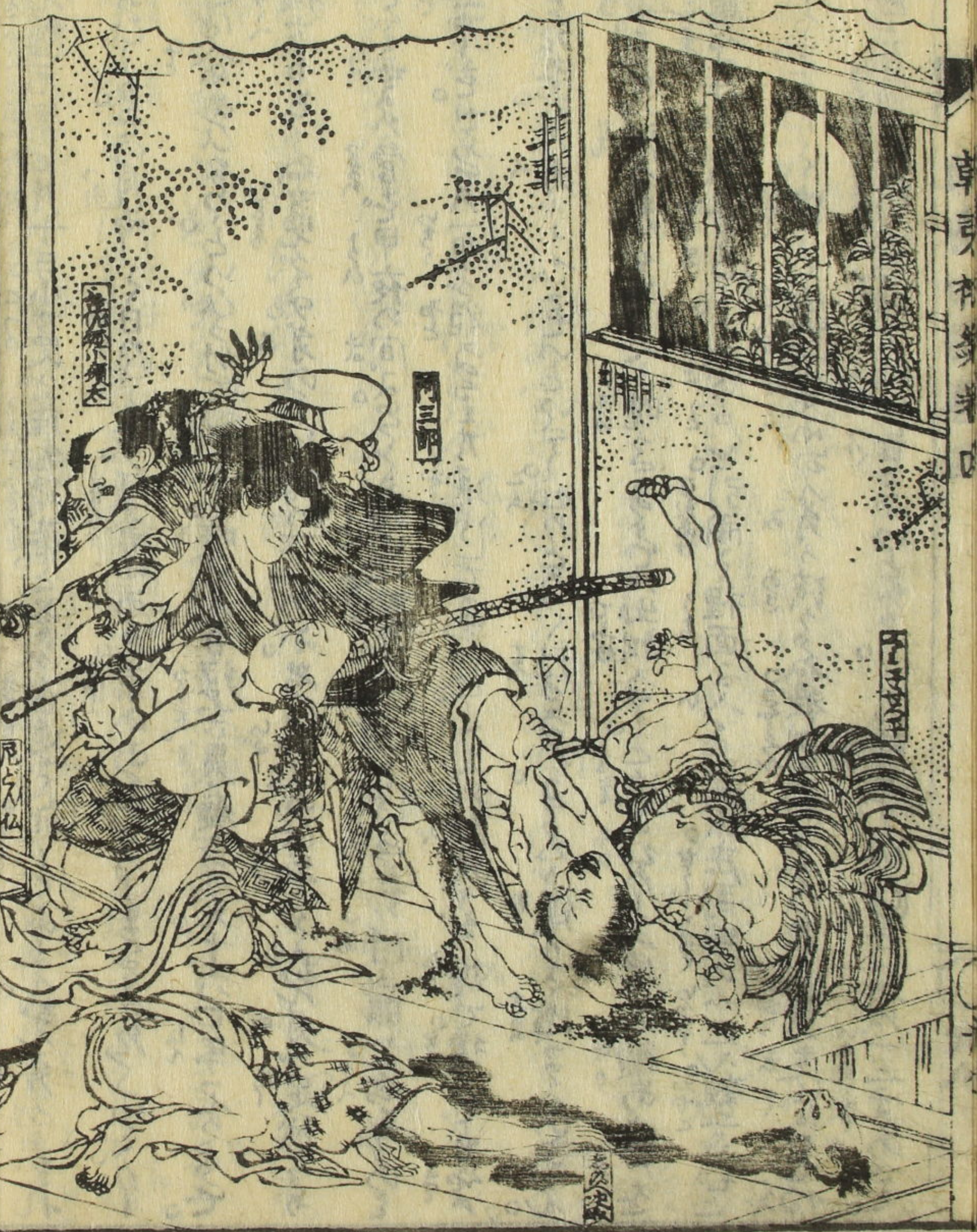
あり。後。残。り。果。ま。ん。と。思。ふ。は。る。の。為。ゆ。と。ま。り。有。り。た。ま。ま。く。赤。し。と。紅。と。ら。う。と。
 ち。ん。の。心。あ。ら。ぬ。と。船。堀。の。眼。代。小。緑。り。と。も。家。属。と。ま。り。と。熱。う。る。赤。衣。初。を。く。
 千。金。の。身。を。垂。ひ。多。り。これ。お。考。と。も。養。と。も。し。り。と。強。く。彼。知。れ。熱。死。多。り。い。ら。ん。
 ち。ん。眼。前。刃。伏。し。は。た。の。數。を。せ。と。阿。三。郎。が。腰。刀。小。の。吹。掛。ま。り。短。慮。ん。
 假。令。今。養。父。の。怒。を。復。す。と。も。母。を。殺。す。何。ゆ。せん。と。は。練。小。後。ひ。て。熱。の。た。ま。
 知。ま。へ。と。ら。ん。バ。び。び。び。ち。掉。し。て。鮮。と。る。血。と。死。の。あ。ん。力。が。進。退。不。使。ゆ。た。ん。
 自。子。の。浦。上。を。使。船。く。相。撲。の。心。を。入。り。も。も。も。と。熱。く。上。怒。乃。の。心。
 熱。死。た。ん。も。食。を。て。け。く。様。さ。の。苦。難。あ。ら。ん。と。輕。獲。と。あ。ら。ん。雜。具。小。代。り。
 調。子。の。根。こ。ら。る。ゆ。り。せ。ら。ん。と。由。り。て。去。り。後。と。遠。去。を。推。辞。と。聽。
 ち。ん。の。心。あ。ら。ぬ。と。潜。中。小。袱。包。小。卷。銃。と。そ。の。後。母。の。背。負。せ。物。と。ま。り。送。り。あ。り。
 ち。ん。の。心。あ。ら。ぬ。と。志。成。許。ん。と。ま。り。母。の。意。の。構。後。が。せん。と。由。り。せ。ら。ん。上。怒。の。場。

阿三郎
夜襲を
聖堂



聖堂

聖堂



聖堂

聖堂

聖堂

この期に及びて口養の益益母の吾情が素肉と便宜の里まぐ送る著人現親子
 此れ共々送るゆへに却危し阿三郎今宵の出船は兼津まで後悔はしなく
 急げと葉舟を扶掖つ門尺阿三郎も襦袢を折るゆへ共々立出ればさるる
 告別言の中も母の言を宵雨は誘引さく走去入の情と母の恩海と出る旅のそら
 阿三郎は心もやうて雲時其方を目送りけり。葉舟は阿三郎の霊山
 地を強る編歴一果の信濃よぐあまふく九十餘歳の上壽をこもり和田合戦の
 後やその朝給の尼とく彼阿三郎ひきまふてあると云ふも阿三郎は母のゆへに
 一と心にと養父の仇も尼眼代ホを殺むは立去らばと豫も又の解堀が
 宿所へゆり潜び入り數の仇を殺彈せ。その圖はつふふ出たとりだの物結長
 中もさるるゆへにそれゆへに條を更と第五の巻のそらゆへにそのゆへに端をむく
 朝夷巡島記全傳卷之四 終

朝夷巡島記全傳卷之四 終

